

【第3回久留米市田主丸老人福祉センター指定管理者候補者選定委員会 会議録】

- 日 時 令和元年10月11日(金) 14時00分～15時13分
- 場 所 久留米市役所307会議室
- 出席者 日高艶子委員、佐藤真樹委員、松延完治委員、右田徹一委員、竹村美穂委員
小西敏博委員 (全員出席)
- 開催形態 非公開

1 開 会

2 説明事項

(1) スケジュール、審査手順等

事務局よりスケジュール、審査手順の説明を行う。

- ・二次審査対象団体は1団体であり、プレゼンテーション(20分)、及び質疑(30分)を行う。
- ・プレゼンテーション・質疑が終了した後、事務局で採点表を回収し集計を行う。
- ・集計結果に基づき、委員会において候補者を選定する。

3 2次審査

(1) 応募団体によるプレゼンテーション、質疑

応募団体Aによるプレゼンテーションを実施後、質疑を行う。

委 員：合理的配慮や認知症予防事業に関する研修は、スタッフ研修の中に含まれるか。

団 体：施設担当職員の接遇研修を毎年実施している。その研修の中で合理的配慮に関する研修も入れ、学習を深めていきたい。

委 員：接遇研修の中で実施したとしても、合理的配慮や認知症予防に関する具体的知識がないと接遇につながっていかないのではないか。

団 体：我々は介護保険事業も実施しており、障害者への訪問介護や認知症への対応などは専門職がいるので、質問やわからない点はアドバイスしている。

委 員：特別に研修しなくても困ったときにすぐ聞ける関係にあるのか。

団 体：そのとおり。また、ヘルパー研修についても考えている。

委 員：アンケート調査を予定しているが、誰がどういう方法でいつ実施するのか。評価の結果をどこにどう反映していくのか。

団 体：アンケート調査は年1回、利用者に対し紙面で実施している。アンケート調査の内容は、質問項目として、申請のしやすさ、施設設備は満足度、実施している各教室のサービス、職員の接遇等がある他、その他として自由記述欄がある。また、アンケート結果は、例えば、設備関係であれば、計画的に予算に反映させていく。この他、アンケート結果は、年4回実施しているセンターの利活用促進の意見交換会で公表し、委員との意見交換を行っている。

- 委員：アンケート調査の対象者数はどのくらいになるか。
- 団体：平成30年度で、274名。
- 委員：地域との連携の項目の中で、地域福祉活動コーディネーターとあるが、どのような人で、どのような活動を行うのか。
- 団体：地域福祉活動コーディネーターは、当団体に所属する職員で、市内の各校区に出向き、校区社会福祉協議会が行う地域福祉活動の推進支援を行っている。
- 委員：各種ネットワークをどのように活用し、センターの管理運営に反映させていくかの項目について、「利用者のサービスに反映させています」と書かれているが、これ以外に今後どのように発展させるつもりなのか。
- 団体：各種団体との定期的に意見交換を行っているが、そこで新しい事業の提案や要望を聞きながら、新しい分野に発展させていきたいと考えている。
- 委員：さらに、こういう部分に反映・発展させることが可能でないかと考えられるものはあるか。
- 団体：意見交換会には、利用者の代表として老人クラブ、福祉関係として民生委員、地域の代表として校区社協、そのほか学識経験者など10名が出席し、様々な意見をもらっている。この前から老人クラブと共催で健康寿命を延ばすため、シルバー生き生き教室の取り組みを始めた。今までは座学が中心だったが、体を動かすということにも取り組んでいく。さらに校区社協との協働も進めていかなければならないと考えている。また、浮羽医師会の在宅医療連携会議や運営委員会に参加しており、医師会の方に、センターで実施している「楽し〇カフェ」で講演してもらい、校区に広げていければと思っている。
- 委員：利用者の目標「5年で1%の利用者増を図ります」とあるが、1%の根拠は。また、新しい利用者を作る事業があれば教えてもらいたい。
- 団体：高齢者の余暇活動は、広がっているが、一方では、現役で仕事をしている方もいるし、利用者が病気になることもあるため、今の利用者の現状維持が精一杯ではないかと感じている。しかし、認知症予防や介護予防の企画事業に着目し、一人でも多くの方にセンターを利用してもらうような事業を組み込む予定であるため、1%の利用者増とした。
- 委員：自主サークル活動の支援とは具体的に何をするのか。
- 団体：講師の紹介など、老人福祉センターからのサポートを通じて、自主サークルを育てていきたい。類似施設で良い運営を行っているところは自主サークル活動が非常に盛んである。田主丸地域で折り紙やフラワーアレンジを行っている人がいるので、そういったサークルも考えている。
- 委員：今後、力を入れていきたい事業や来年度に向けてどのような事業をやっていききたいか教えていただきたい。
- 団体：認知症と思われる利用者が増えてきたので、認知症となってもセンターが利用できるような場になると良いと考えている。認知症カフェではないが、認知症の方、家族の方、いろいろな方が来る共生型サロンを平成29年から開始し、利用者も増えている。健康音楽教室も平成30年度から始め、受講生も多くなり、来年度は教室

数を増やす計画である。

委員：認知症予防とあるので、認知症の方、その家族の方でもよいということで「楽し〇カフェ」は今もやっているのか。

団体：そのとおり。

委員：広報事業の充実でホームページ、ツイッター、フェイスブックとあるが、利用者は見ないのではないか。どういった人がターゲットか。

団体：老人福祉センターで開催した事業をフェイスブックに掲載している。高齢者の方は見ないかもしれないが、広報することによってどういった事業を行っているかを利用者以外にも知ってもらうことが大切である。その人たちが、老人センターの事業を他の人や自分の家族にも教えて知ってもらうことが大切と思っているので、全市民を対象に広報活動を行っている。また、田主丸支所管内には有線放送があり、事業実施の際は事前に放送している。また、校区社協の総会にも出向き、事業の広報を行っている。

(2) 集計結果の報告及び指定管理者候補者の選定について

各委員の採点后、事務局で集計を行い、その結果を委員会に報告

委員長：集計の結果、応募団体 A は総得点 438 点で、審査要領に定める最低基準を満たしている。したがって応募団体 A を優先交渉権者として選定したい。

《全委員了承》

4 その他

—事務局説明—

- ・田主丸老人福祉センター指定管理者候補者選定に係る今後のスケジュールについて説明

閉会